



「朝つゆ」は、なぜたまっているの

朝は気温が低いから

つゆは、地面や地面の草木の葉などの表面に、空気中の水蒸気が水のつぶに変わり、水がしずくのようになって、くっついたものです。つゆは、春や夏にも見られますが、1年を通して、秋に多く見られます。

「朝つゆ」ができるときは、高気圧におおわれて、風がないよく晴れた日にできます。くもりや風がある日には、ほとんどできません。風がない、よく晴れた日の夜から朝にかけて、地面の温度が急に低くなります。すると、地面近くの空気が冷えて、空気中の水蒸気が、水のつぶに変わります。この水のつぶが、地面や地面の草木の葉についてたまり、つゆができます。朝は、まだ気温が低いので、つゆはたまっていますが、日が高くなるにつれて、つゆは蒸発してなくなってしまいます。

冷えこみが弱いと、つゆはできにくい

つゆは、丸い形をした、しずくのようになるときや、物をぬらしたような状態になるときもあります。

空気にふくまれる水蒸気量は、気温によって変わります。気温が高いほど、空気中にふくまれる、水蒸気量は多くなっています。よく晴れた風のない日は、昼間は気温が高くなりますが、日がしずむと、急に気温が下がります。気温が下がると、空気中の水蒸気の一部が、つゆになります。

くもっていると、夜の冷えこみが弱く、また、風が強いと、空気がかき回されて冷えこみが弱くなるので、つゆはできにくくなります。（監修・村山 貢司）

